

## 事故多発基本動作の徹底

東京第二運転所では、事故が多発しているため、指導科に「事故多発基本動作の徹底」と書かれた大弾幕が掲げられた。しかし、その次の日にまた事故が起きた。

### 最近事故が連続して起きるのはどうしてなのか？その原因はどこにあるのか？

ミスや事故を起こすと、原因追及よりも叱責・罵声といった責任追及で責め立てられる。(当事者の気持ちになると心が痛くなる)その後、そして、反省文、対策、フォロー教育と高い壁を越えなければ復帰できない。当事者は、事故を起こした瞬間にその責任の重さに深い反省とその後の懲罰に心を痛める。しかし、会社は事故責任としてペナルティを与え、初めての事故でも「今後は気を付けてください」とはならない。懲罰を逃れたい気持ちから虚偽の報告をしてしまうこともあり、責任追及では本当の事故原因を探り事故を防止することにはならない。

管理者は、事故防止対策を上にあげなければ責任を問われる。そのために、責任追及と対策を立てなければならない。そして、出来上がった対策はすべて基本動作に組み込まれ、『基本動作の徹底』と言うメリハリのない対策になっている。数多い喚呼も含めて天文学的に近い基本動作になっている。そして、添乗時には喚呼の一字一句が違っていたり、ちょっとでも違う表現があれば指摘しそれを上げることを目的としている。指摘事項を探してそれを上にあげることで添乗の責任を果たしていると思えない。

### 責任追及はNO！ 基本動作を減らせ！心ある指導を！

組合員、ユニオン、国労の皆さん、

休養はとれていますか？年休もほとんど入らず、休日出勤、QC、業研、勉強会とご苦労様です。

乗務員は、長時間勤務、サービス労働と休養が不十分のため疲労しています。東二輸待機室は病院の待合室よりも酷く、長時間乗務に対しての待機・休養には適していません。そのために、乗務中の集中力が続かず、ふと気を緩めてしまい事故の発生に結びついているのではないかと考えます。

J R 東海の体質は社員を締め付けることで、責任追及をもって事故防止の対策としていますが、責任追及だけでは事故は無くならないことは現実をみれば明らかです

事故防止は労使一体となって原因追及を目指さなくては、事故は無くなりません。同時に働きやすい環境もが必要です。

東海労は、ゆとりのある職場環境と責任追及より原因追究を目指して、少しでも事故を無くし働きがいのある職場を追及していきます。

東海労と一緒に働きやすい、働きがいがある職場にしませんか。

鉄道会社なのに、社員が家族ととともに旅行にも行けない状況を変えていきましょう！